



## 岐阜米穀(株) メールマガジン

### 今回のテーマは「ISO22000取得の報告」

まず岐阜米穀(株)とライスアイランドの関係について説明させていただきます。

岐阜米穀は創業明治38年に起業し地域の米屋として肥料から金融まで扱い、今年で117年になります。近年は食物繊維穀物にチャレンジして、スタートは発芽玄米を先駆けて発売してから雑穀やオートミールの商品開発に力を入れて来ました。

原料調達・仕入ノウハウや自社工場による製造機能を持ち、ライスアイランド商品の生産から出荷まで全てを行っております。

余談ですが、岐阜米穀の社長（小塩幹雄）は3代目になります。本人は虚弱体質だったと言います。19歳の時にドイツ留学の体験が企業理念につながっており、留学中にドイツ、オーストリア、スイスを旅する2か月で体調が良くなってきたのです。

寒い地域では小麦が採れないので、オーツ麦やライ麦を主食です。オーツ麦やライ麦は柔らかいので精白ができない全粒穀物だったのです。毎日の穀物由来の食物繊維の食事が身体の芯をつくるキーワードだったのです。

今では食物繊維（穀物繊維）を日本の食卓に普及することをライフワークにして、ライスアイランドを創業して「素食生活」などブランド化してきたのです。

今回、岐阜米穀(株)ではオートミールの小分け包装ラインでISO22000を取得しました。安全な食品を継続して製造・提供するための社員教育をアップデートしながらシステムを合わせています。

今後は岐阜米穀(株)はPB・OEMの受託にも力を入れて行きます。

自社で海外から仕入れ調達ノウハウを生かしますし、ISO22000の仕組みを運用しながらオートミールの製品を作ります。

例えば、クイックオーツからロールオーツまで何種類も選べますし、要望に合わせた内容量にパックしたりもでき体制を作り上げました。

例えば、20gのスティック包装にしてスープ原料にしたり、災害食としての需要も見込めます。

例えば、ロールドオーツを破碎してパン粉の替りにできます。

例えば、オートミールに顆粒状な物やパフ状な物を混ぜたり。

例えば、オートミールにライ麦フレークを混ぜたり。

他にも、もち麦やオーツ麦、雑穀、玄米など原材料から持っています。

設備の紹介

スティック包装3ライン

グレインカット加工ライン

破碎ライン

六連パッカー1台

ロータリーパッカー3台

単体自動パッカー1台

など